



第6回アジア未来会議

## シンポジウム

渥美国際交流財団関口グローバル研究会 (SGRA) ・中国文化大学共催  
中国文化大学会場&オンライン (Zoom) ハイブリッド開催

# パンデミックを乗り越える国際協力

—新たな国際協力モデルの提言

2022年8月27日 (土) 16:00~17:30 (台湾時間)

(日本時間) 2022年8月27日 (土) 17:00~18:30

英語・中国語・日本語3言語同時通訳で開催

参加無料

パネリスト:

(台湾) 孫效智 Hsiao-Chih Sun

..... 国立台湾大学学長特別補佐 (生命教育学)

(韓国) 金湘培 Sangbae Kim

..... ソウル大学教授 (国際政治学)

(台湾) 黄勝堅 Sheng-Jean Huang

..... 台北市立聯合病院前総院長 (医学)

(日本) 大曲貴夫 Norio Ohmagari

..... 国立国際医療研究センター国際感染症センター長 (医学、公衆衛生学)

(台湾) 陳維斌 Wei-Bin Chen

..... 中国文化大学国際部部長 (都市工学)

モデレーター:

(台湾) 徐興慶 Shing-Ching Shyu

..... 中国文化大学理事/特約講座教授 (日本研究)

<お申込み>

オンラインでご参加の方の申込フォーム

<https://onl.bz/xekywMA>



会場参加の方の申込フォーム

<https://forms.gle/28g7Sp444ETZT1ma7>



<お問合せ先> アジア未来会議事務局 [afc@aisf.or.jp](mailto:afc@aisf.or.jp)

シンポジウム中の技術トラブルは Zoom のチャット機能でご連絡ください。

“諸行無常、愛のみが永遠。”



## 孫 效智 Hsiao-Chih Sun

ドイツ、ミュンヘンの哲学アカデミーで哲学博士号を取得。国立台湾大学秘書室長、国立台湾大学哲学科長、教育部生活教育推進諮問委員会委員などを歴任。現在、国立台湾大学総長特別補佐、国立台湾大学哲学科教授・生活教育研究開発センター長、教育部生活教育研究開発センター長を務める。



### コロナ下の生命倫理的課題

COVID19 によって人々は多面的に命について反省するようになった。1) 無常と意味：命の意味を振り返る。2) 義理の弁と価値判断：COVID-19 は多くの選択を迫るものであり、個人も国も、周延かつ客観的な義理の弁と価値判断をした上で行動しなければならない。3) 防疫は人同士の間にも空間的距離をもたらした。個人と組織の面でコミュニケーションと相互支援を如何に強化するかが非常に重要である。4) 集団社会は、生命教育をもっと重視すべきである。生命教育は全人教育の核心である。COVID-19 によって人々は無常を体験し、人生の意味を探究し、三観をあらためて考えるようになった。教育は生命重視であることをわれわれは防疫から学んだ。ここから教育の本質と全人類の発展の核心に立ち返り、深く高度な人間性を持った未来の人間を育むことができるだろう。

“複雑系理論に基づくエマージングセキュリティー (emerging security/新興技術をめぐる安全保障問題) の観点から、COVID-19 が世界中にもたらした未曾有の危機を捉える。

さらに韓国から見た新たな国際的・地域的協力モデルとして、

「メタ・ガバナンス」の視点からの制度・機構のモデル開発について提言する。”



## 金 湘培 Sangbae Kim

インディアナ大学ブルーミントン校政治学部 (博士)。韓国国際政治学会副会長、総務理事、研究理事、カリフォルニア大学デービス校客員教授、韓国情報通信政策研究院 (KISDI) 研究員を歴任。現職はソウル大学政治学・国際関係学部教授、ソウル大学国際問題研究所所長、および韓国国際政治学会会長。



### COVID-19 と韓国：

#### エマージングセキュリティーとメタ・ガバナンスの視点から

COVID-19 はもはや医療分野だけではなく、国際関係における安全保障の一部という観点で新たに「医療保障」という概念を生み出した。これまで安全保障が想定してきたセキュリテリスクとは異なり、複雑性理論の概念である「エマージングセキュリティー」の典型的な事例といえよう。ミクロのレベルでは単純な個人の健康問題だが、定量的に増加し、ある線を超えると、地域および国のレベルでの医療問題となり、更に経済、社会および外交などの課題と繋がり、国際的な安全保障の問題となる。複数のアクターの参加およびレジリエンスと柔軟な対応のメカニズムを強調する「メタ・ガバナンス」の視点から COVID-19 の新たな政策を、韓国の経験を紹介しながら提案したい。

## “COVID-19 に直面し謙虚さを学び、傲慢さを捨てる”



黄 勝堅 Sheng-Jean Huang

国立台湾大学で医学の学士号を取得。 台北市連合病院総院長、国立台湾大学病院金山分院院長、国立台湾大学病院雲林分院外科部主任、国立台湾大学病院神経外科専任主治医を経て、現在国立台湾大学医学部外科副教授。



### COVID-19 への反省：人間性、強さ、そして変容

過去二年間、台北市立連合病院は COVID-19 の種々の段階に対し、十分にその強さを発揮してきた。台北市政府重大特殊感染性肺炎感染状況指揮対応措置と連携し、検疫隔離、診断検査、ワクチン接種、医療サービスを担っている。官民連携でモジュール化、標準化、デジタル化、多様化等のオープンソーステクノロジーを活用した防疫クラウドシステムを開発した。防疫業務が各機関・部署と病院を横断することで、意思決定者は確実に最新の情報をいち早く運用できる。サービスイノベーションはすべて、「人を第一に考える」という原則に基づいている。デジタル技術の活用により、各部署間の情報断絶の問題は解決され、隔離者をスムーズに集め、医療システム間の共同防疫を即時に行えるようにし、感染チェーンの遮断を強化し、国民生活を一刻も早く正常な状態に戻すことができるようにしている。

“このような貴重な会議にお招きいただき、光栄に存じます。

ポストコロナの時代をどのように作り上げていくのか、また、感染症という新しい脅威にどのように立ち向かっていくのか、各国間で協力し議論できること、期待しております。”



大曲 貴夫 Norio Ohmagari

愛知医科大学医学博士。国立国際医療研究センター病院国際診療部部長を経て現職は国立国際医療研究センター国際感染症センター長兼総合感染症科科長、および AMR 臨床リファレンスセンター長。



### 日本における COVID-19 の影響と今後の展望

日本の感染症に関する複数の法律の特徴は、国民の行動を強く規制していないことである。実際、国民は政府が推奨する感染予防策に従い、自らリスク回避の行動をとることが多く、その結果、ある程度感染が抑制され、欧米諸国と比較しても現在に至るまで死亡者数は低く抑えられてきた。今後はどのような未来を目指すのかが議論される必要がある。日本の場合、ワクチン接種率は高いが累積罹患率は低い。換言すれば、感染対策を一気に緩和すると、感染者が大量に発生し、社会に大きなダメージを与えることが考えられる。死者数の低減と、経済活動の回復をいかに両立させることができるかを講じた日本の対策は、罹患率の高い国とは異なるアプローチとして重視されるべきであろう。

---

“COVID-19 による世界への重大な影響の一つは国際交流の停滞である。

物流や人流に未曾有の衝撃を与えただけでなく、大学の国際交流もかつてないほどの困難に陥った。果たしてこれは危機なのか、それとも転機なのか。”



## 陳維斌 Wei-Bin Chen

米国オハイオ州立大学大学院都市地域計画学博士。現職は、中国文化大学都市計画及び開発管理学科准教授、中国文化大学国際部部长、行政院内政部地域計画委員会委員、中華民国都市計画プランナー、米国 GISCorps ボランティア。



## 新型コロナウイルス下における国際学术交流

### — 中国文化大学を例に

COVID-19 の影響で特に深刻なのは、学生のグローバル・モビリティ (global-mobility) の低下による高等教育国際化計画への影響である。オランダの留学生オンライン検索プラットフォーム (StudyPortals) の 2020 年 4 月の資料によると、40% の留学志望者が今の留学計画を変更している。このような厳しい状況で、近い将来に突破口が見つからない中、国際交流と感染症はどう共存していくのかは、COVID-19 への対応は、ポストコロナ時代の新しい国際交流のモデルとなり得るのか否か。今後の動向が注目される。

---